令和2年度学校関係者評価委員会における委員の意見及び本学の認識・対応方針

評価項目	委員の意見	本学の認識・対応方針
	【神谷委員】 (3)について、「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン」や 「国際園芸アカデミー有識者会議」を開催してアカデミーのニーズを踏まえた 将来構想を描いているのであれば、評価は3でなく4としてよいのではない か。また、エビデンスとして、運営向上プランがどのようなものかという資料 と、有識者会議でどういったことを決めたのかといった議事録を、簡単なも の、抜粋でよいので添付していただかないと評価できないので、お願いした い。	県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上プランについては平成30年度末に策定され、令和元年度が5か年計画のうちの初年度であった。その具体的取組の1項目として、本学の今後のあるべき姿について国際園芸アカデミー有識者会議において議論しているところである。令和元年度から丸2年かけて協議を継続し構想がまとまるというスケジュールであり、協議継続中の段階であることから評価4には至らないと判断し、3とした。これらの会議資料及び概略について改めて評価委員に送付させていただくとともに、本学ホームページにおいても会議の概略を掲載させていただく。
	【神谷委員】 (4)について評価を3としているが、今後評価4を獲得するために、どのような周知活動をしようと考えているのか、教えていただきたい。	学校見学会及びオープンキャンパス開催前のタイミングを狙って、県内及び近隣府県の高校をできる限り訪問するようにしている。とりわけ個人単位で資料請求した生徒のいる学校や、2年生のうちから本学を訪ねてきた生徒がいる学校には積極的に訪問し、きめ細かな情報交換により生徒の状況を把握したいと考えている。
2 学校運営	特段意見無し	
3 教育活動	科目を掲載しているが、2018年度と2019年度とを比べると、今年の1年生から「キャリアデザインIII」がなくなっている。「キャリアデザインIII」というのはどういった授業なのか、また「キャリアデザインIII」を新しいカリキュラムからなくした理由を教えてほしい。	キャリアデザインIIIの授業内容は、生活設計の立て方、基本的な労働法規・租税法規、及び建設的なディスカッションの手法を理解することを目標とした授業である。 キャリアデザインIIIをカリキュラムから削除した理由は、職業実践専門課程の認定を受けるタイミングで、2年間の修了要件を2100時間から1800時間としカリキュラムを再編したためであり、併せて学生にとっての自学時間の確保や教員にとっての授業準備確保による授業の質の向上を図るためでもある。 キャリアデザインの授業は、I、II、IIIと3つのステップを踏んでいたものを、授業の質を落とすことのないよう配慮し、I及びIIとして再編した。

評価項目	委員の意見	本学の認識・対応方針
4 学修成果		本学ではカウンセリングだけではなく、学生との個別の話し合いのみならず保護者とも話をし、できるかぎりのことをしてきたつもりであるが、結果として退学となってしまったこと、その他解決策を見つけられなかったといった反省の意も含め、少し厳しく評価をした。
		2人のうちの1人は休学を少ししたのちに退学をした。事情はいろいろあると思うが、学校に不満があったというよりも、自分の進むべき道が少し違った、違う道に進みたいというような意向を持ったのではないかと認識している。学校に不満を持ったということではないと考える。
		今の学生は、アルバイトをしようと思ってもコロナの影響により受け入れてもらえないバイト先もあると聞いており、経済的には大変だと感じている。 このような状況において、経済的に厳しい学生には本学独自の奨学金ほか給付金等国の制度も最大限活用し支援している。学生の状況として、5月末まで登校できなかったが、登校後特に休学に至るようなこともなく、元気に過ごしており安心している。
	適切に厳しくやらないといけないと思う。高校に対してアカデミーに来てくださいと頼んで来てもらったから、卒業後も世話しないかんという姿勢ではよく	本学の方針については、有識者会議の意見や業界のニーズを反映した教育内容とはどの
	【神尾委員】 他の委員の方がおっしゃるとおり、退学率の「2」という評価はちょっと厳しすぎる。今どきの学生は進路や経済的な理由で進路をさっと変える方がいるし、アカデミーの退学者の場合休学してそのあと退学ということなので、学校で相当努力し、学生の親身になって相談に乗った結果である。母数が26と少ないから退学率が大きく見えるが、5人も6人も7人もいるわけではないので「3」でよいのではないか。	小項目(3)について自己評価2としているところを、複数の委員からの意見を踏まえ 3ということにさせていただく。

評価項目	委員の意見	本学の認識・対応方針
えておかなければならない。提案として、プライバシーの問生の追跡調査をアンケート形式で実施したらどうか。追跡調当たり前にやっている。またそうした追跡調査によって、送をしっかり確認できることになるので、ぜひ卒業生に向けていい。 【内山委員】 (12) の再教育プログラムについて、文科省がこうした再作るよう指導し、学校がこうしたプログラムを持っていなけうことなのか。そもそもニーズがあるのだろうか。まさか卒てもう1回できると思っていないだろう。アカデミーにおいて	(12)の卒業後の再教育プログラムに関して、評価が2となると改善策を考えておかなければならない。提案として、プライバシーの問題もあるが全卒業生の追跡調査をアンケート形式で実施したらどうか。追跡調査は大学でも今は当たり前にやっている。またそうした追跡調査によって、送り出した側が現況をしっかり確認できることになるので、ぜひ卒業生に向けて追跡調査されると	
	(12) の再教育プログラムについて、文科省がこうした再教育プログラムを作るよう指導し、学校がこうしたプログラムを持っていなければいけないということなのか。そもそもニーズがあるのだろうか。まさか卒業生は学校へ戻ってもう1回できると思っていないだろう。アカデミーにおいて科目等履修生が5年間在籍していないという結果に対して2という評価になるということかと思	再教育プログラムに関する評価項目については、「専修学校における学校評価ガイドライン」(H25年3月 文科省生涯学習政策局)に示された項目のひとつで、そのまま引用し本学の評価項目とした。この項目に従い、再教育プログラムに値する取組を進めていきたいと思っているが、そこまで到達できていないと判断し、評価を2とした。本学では、改めて教育を受けたいという方を対象に、科目等履修生として、1年間に4科目以内で特定の科目を受講できる制度があり、今年度は1人履修生がいる。再教育プログラムとはどういったものかを研究する必要があるが、卒業生や社会人、退職後の方等を対象にした取組として、科目等履修生制度のPRを今後しっかりと行う必要があると考える。
6 教育環境	【神谷委員】 (3)の防災に対する体制について、今年はこれでよいが、来年度については防災だけでなく危機管理やそれ以外のこと、具体的には感染症対策について、特に今年はコロナの問題があったので来年度の自己点検に関してコロナ対策が極めて重要である。それに絡み、感染症対策に関する規則・規程が十分整っていないのであれば、今年のうちに具体的な対策をどうするのか、どういう形で周知するのか、オンラインの活用も含め、全体的なことを今年のうちに見直しされたほうがいいのではないかと思う。	コロナ問題に鑑みた、国、県及び県教育委員会から示される通達やガイドラインに沿って、本学としてしっかり消化した上で、ご指摘いただいたことを踏まえ今年度中にどのような体制で臨むべきか整理し見直しを行ってまいりたい。

評価項目	委員の意見	本学の認識・対応方針
7 学生の受け入れ募集	園の良さをアピールしておりありがたいと思っている。しかしながら、なかなか難しい。時代もあるかもしれないが、SNS等で学生が本当にアカデミーは良いということをアピールできると、そうかと言ってくれる人がもっと増えるのではないかと思う。そのようなことも大いに出来たらおもしろいと思ってい	今年4月に一新したホームページのなかに公式のフェイスブックとインスタグラムを開設し、毎日のように新たな情報を発信しているところである。学生に対しては#園芸アカデミーと付けて発信するようお願いしており、本学の公式SNSを通じて多くの人でつながると期待している。 今年度新たにSNSプロモーションと題した、動画の編集やアップロードの方法、またSNSを活用した商品PR戦略について学べる授業科目を設定した。これにより、学生のSNSの学ぶ機会をより一層創出してまいりたい。
8 財務	特段意見無し	
9 法令等の 遵守	特段意見無し	
	【前田委員】 (2)のボランティア活動の評価を2としているが、これまでに花フェスタ記念公園で、造園緑化協会が学生と一緒にボランティアに取り組んだことがある。我々は今も花フェスタ記念公園で管理ボランティアをしているので、我々業界と一緒にやることで仕事もわかるだろうし、花フェスタ記念公園の中の取り組みとして評価がもっと上がるのではないかと思う。協会の技術研鑽にもなるので、細かいところも教えながら一緒にできるとよい。	スケジュール調整の上、進めてまいりたい。
	【神谷委員】 資料2-2の8ページ(2)の主要委員会における校務分掌において、教務 委員会と総務委員会の2つの委員会があるが、できたら総務委員会の2段目の 学生支援担当の分掌事務に、3番目の項目としてボランティア活動の推進を加 えるとよいのではないか。大学など大きな組織の場合、委員会に学生生活委員 会なども加わり、そこで就職、ボランティア、健康管理といった項目になるの だが、それは大きな組織でのこと。やはり窓口をつくっておかないと活動もし にくいと思われるので、ボランティア活動の推進を記載しておけば「特段の支 援をしていない」と言わなくてもいいのではないかと思う。	ご指摘のとおり、学生がボランティアをやるためには、窓口がはっきりしないようではいけない。速やかに窓口を設置する。

評価項目	委員の意見	本学の認識・対応方針
11 国際交流	【神谷委員】 昨年度の評価はこれでよいが、今年度以降の評価ということになると、やはりコロナで海外渡航とかこれからどうなるかわからない状況になってきているなか、この国際交流の項目というのは、私どもの学校もそうだが評価項目自体をちょっと考え直さないと評価できないのではと思う。また今回コロナの問題が起きてわかったのは、日本は教育においてIT化がとても遅れているということ。これからは国際交流のためのIT化の推進とか、そういった項目に変えていかないと、今年度以降の評価は厳しいと思う。ぜひお願いしたい。	先行きが不透明な状況であり、また時代の要請も変化する中で、ご指摘のとおり項目自体の見直しは必要であると考える。今年度以降の評価項目について速やかに見直すこととする。
全体を通して	い位置から上げるというのは問題があると思う。これは期待をしているから言	就任して2年が過ぎ、これまで何をやってきたのかと自問すると、細かな改善はある程度やってきたつもりでおり、ようやく平均点にたどり着いたかどうかというレベルになったと自己評価している。 今後も全身全霊を込めて、この先にまだ数多くある改革の渦に取り組んでいきたいと考えている。

評価項目	委員の意見	本学の認識・対応方針
全体を通して	るとよいと感じていたり、また、アパートのことを心配したりする学校もある。県内の農業関係高校全体では5割以上が進学し、その3割以上が4年制大学	本学としても高校と異なるもの、高校からさらに上積みの部分を教育することが一番大事であると思っている。そのため、本学教員が農業系高校に研修という形でお願いしており、高校で実際何を教えているのか、何がアカデミーで求められているのかなどを把握しながら本学の教育に生かしたいと考えている。 本学教員が高校に出向く出前授業などを通じて、高校とはぜひともいろいろな形で連携をしていきたいと考えており、今後ともよろしくお願いしたい。
全体を通して	【小笠原委員】 いろいろとお話しを聞かせていただき、科目履修生が卒業生でも科目履修できるというのを初めて知った。学生の時は実務経験がない状態で勉強させていただくわけで、例えばマーケティングや簿記の授業など、何年か働いてきた今ならさらに理解が深まるだろうなと思うので、こういった制度があるなら今後利用したい。また、卒業生が300人くらいいると思うが、卒業生の僕らをアカデミーの授業に誘っていただけるのであれば、僕らも違った目線で勉強できるのではないかと感じた。	科目等履修生制度がPRができていないということが改めてわかったので、今後しっかり周知してまいりたい。
全体を通して	【小島委員】 子供がアカデミーに入って間もないので、よくわからない部分が多々あるが、最初に学校を訪ねたとき本当にきれいな学校だと感じた。緑がいっぱいで先生方もすごく楽しい方ばかりで、まだ2か月足らずだが子供はすごく楽しく通っている。それが何よりだと感じている。	

評価項目	委員の意見	本学の認識・対応方針
全体を通して	【井戸委員】 アカデミーは開学以来、実践重視で花と緑の産業の現場を支える人材育成と教育目標のもと、数多くの卒業生を輩出してきた。教育の幅も広く行政と一体となって取り組んでいただいている。先ほど加藤委員からアカデミーに期待しているという力強い発言があった。産業界とも連携しいろんな取り組みをしていると思うが、産業界の今の課題をプロジェクトとして取り上げて、フィードバックしながら交流を進めることで、業界も地域への貢献度が高まっていくと思う。また、卒業生の方が非常にアカデミーに愛着心を持っており、卒業後も頻繁にアカデミーを訪問しているのを目にする。卒業生の方は現場の最前線で活躍しているわけだから、それぞれの業界の新しい情報というものをアカデミーの方へもってくる、また社会人を経験し悩みを抱える学生に対し学校側はアドバイスをするといった、意思疎通を密に続けることによりアカデミー側も大きな財産となっていくと思う。そういったことも含めて産業界に貢献できるよう、わたくしたち行政も協力させていただきたい。	今後ともより一層、行政、業界と連携し、まさに花と緑の現場を支える人材を育成できるよう邁進してまいりたい。